

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学学長選考会議（第45回）議事要録

日 時 平成30年6月21日（木）10:40～12:00
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 本部棟2階 中会議室
出席者 平澤議長
浅野学長，相澤委員，岩澤委員，久和委員，寺野委員，松澤委員，永井委員，
川西委員，神田委員，金子委員，塚原委員
陪席者 西関監事

議事に先立ち，事務局から，議長の選出について説明があり，学長選考会議規則第5条第1項の規定に基づき，委員の互選により，平澤委員を議長に選出した。

議長から，学長選考会議規則第5条第3項の規定に基づき，議長の代行者として寺野委員を指名する旨発言があった。

また，第44回（平成30年3月15日開催）の議事要録（案）を確認した。

議 事

1. 学長との意見交換について

議長から，学長との意見交換の進め方について説明があった。

引き続き，学長から，平成29年度の業務執行状況について説明があり，監事から意見を聴取した後，意見交換及び質疑応答を行った。

(1) 監事からの意見

博士前期課程の受験倍率が2倍に増加したことは高く評価できる。20名の助教を新規に採用するなど教員人事にも取り組んでいることから，学長の任期満了時までには研究力の活性化及び研究実績の向上の効果が現れることを期待している。総合的に見て，浅野学長はうまく管理運営を行っているとは評価したい。

(2) 意見交換及び質疑応答

○教育の質の向上について

従来の日本の大学院教育は，学生を研究室に囲い込み，指導教員を中心とした指導を行う蛸壺型教育であった。学長のリーダーシップのもと，JAISTが大学院レベルのカリキュラム改革に取り組んでいる大学であるということを明確に学外に対しても打ち出していくべきである。

○FDの重要性について

教育改革において最も重要なのは教員の意識改革である。博士後期課程においては，論文数を増やすことを重視する教員が多い。教員が自分のコピーとして学生を育成するのではなく，教員を超えるような学生を育てるのが本当の教育である。産業界においても異なる分野で活躍できる人材が求められている。特に若手教員に対するFDが重要である。

○博士学位の授与基準について

従来の日本の大学院では，博士学位の授与基準というより，博士論文の審査基準であったと言える。学士，修士，博士のそれぞれの学位によって，目指すべき人材像を専攻レベルで

明確化し、それを反映した学位審査をすべきである。JAIST がリーダーシップを取って博士学位の授与基準を示してほしい。

○博士後期課程の目的について

日本の企業には、採用予定者を博士後期課程に3年間も人材を置いておくのは長すぎるという考え方があり、企業内で人材を教育していくという意識が依然としてある。一方、ドイツでは、博士号取得者の90%以上が産業界に進んで活躍しており、それがドイツ企業の強みとなっている。日本の大学においても、学生が産業界に進んだときに適切な能力を発揮できるような教育をするという意識を持つべきである。JAIST が産業界で活躍できる人材を育成して企業へ送り込む姿勢を示せると良い。

以上